

## 主催者挨拶

第 25 回宗像地区「同和」教育研究集会  
実行委員長 新谷恭明

7 月 26 日未明に相模原市の障害者施設で元職員によって 19 人が刺殺され、26 人が負傷するという事件が起きたことはまだ記憶に新しいと思います。戦後最大という大量殺人事件であると同時に、なにより障害を持った人間を障害者であることを理由に殺害したということでこの事件はたいへんな衝撃でした。

被疑者の元職員は衆議院議長宛に手紙を書いており、その中で障害者を殺すことの正当性を主張しているのです。それはかつてヒトラーがその優生思想、つまりアーリア人種だけが優れており、人種的に劣ったものや国家の役に立たない人間は抹殺していくべきだとした考え方とほぼ重なる考え方です。そしてこの思想に基づいてヒトラーは T4 作戦という障害者殺害政策を実施しました。障害者を収容し、ガス室で大量に殺害していきました。そして、この延長線上にユダヤ人やシンティ・ロマへの迫害、虐殺があったのです。

この被疑者の考えはヒトラーの T4 作戦と全く同じものと言うことができます。こうした考えはこの被疑者だけの特別なものではありません。

例えば自民党ネットサポーターズクラブという自民党の支援組織の会員を自称する人物がブログ上で「この施設では 149 人の障害者に対し、職員が 164 人もいる。これではいくら職員を薄給でこき使わせたところで採算が取れるはずもない。そんな状況では国民の税金が無駄に使われるのがオチである。無駄な福祉費を使わなくて済ませることが国家に対する重大な貢献となる。だからこそ〈この事件の被疑者〉が言うように障害者はいなくなるべきなのである。」と公言していることです。

もちろん日本の政治をリードしてきた自由民主党がこのような政策を提言するとは思えませんが、周辺にそのような考えの人たちがいるということは非常に気になることです。

また、このような考え方は、特定の民族を「殺す」とまで表現して罵倒しているヘイトスピーチにも共通する考え方だということが出来ますし、さらに気になることは殺害という行為は表向き否定するものの、この被疑者の考えに共鳴する人たちが想像以上に多く存在するということです。今回の東京都知事選にヘイトスピーチを行ってきた在特会の元会長である桜井誠氏が立候補しておりました。そしてなんと 11 万 4174 票を集めているのです。少なくとも東京都には 11 万人以上、在日韓国・朝鮮人の存在を否定し、罵詈雑言を浴びせかけることを支持したり、容認したりする人がいるということなのでしょう。

相模原市の事件が与えた影響は大きいと言えます。このような犯罪が続くとは思いたくありませんが、障害者の存在を否定しようとしたり、国益（と言ってもそれがなんであるのかは多様なはずですが）に利さないからといって社会的に消していくことを否定しない発想が広まっていくことに底知れぬ恐怖を感じます。

また、1975 年に「地名総鑑事件」として部落出身者の身元調査差別事件のもととなった中央融和事業協会が作成した「全国部落調査」を復刻、販売しようという試みが明らか

かになりました。

このように差別したがる人間の意識や行為をあからさまに見せつけ開き直るかのよう  
な事態が頻発しています。

宗像地区「同和」教育研究集会は 25 回目を迎えました。人権はこの国がまっとうな民  
主主義の国であり、自由と平等と民主主義の国でありつづけるためのもっとも重要な問  
題です。この国が誰にとっても住みやすい国であり、社会であるように私たちは宗像の  
地から〈人権の輪〉を世界に発信していかななくてはなりません。人権が危機にさらされ  
ているこの時期に今日という日が大切な一日となるようにと願って主催者の挨拶とさせ  
ていただきます。